

障害者スポーツ推進プロジェクト 令和3年度 of 取組スケジュール

		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度											令和4(2022)年度以降		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		3月	
1	実行委員会	実行委員会 【年2回】				○実行委員会 (第1回)								○実行委員会 (第2回)		実行委員会 【年2回】
2	障害理解啓発コンテンツの水平展開 (スポーツを通じた障害理解啓発プログラム)	・絵本活用のための 教員向け研修 ・紙芝居の作成	紙芝居活用のための教員向け研修調整						○紙芝居を活用した 小学校福祉学習		・市内小学校で、順次活用 ・市内保育園に配布、順次活用 【紙芝居】			○全市図書 ボランティア 研修会	○人権研修会	絵本、DVD、紙芝居を活用し市内各小学校等で、順次展開
3	障害理解啓発コンテンツの水平展開 (オープンエアメーカー養成講習会)	・市社会福祉協議会の職員を対象とした講習会の実施 ・オープンエアメーカー養成講座動画DVDを活用した水平展開	社会福祉協議会等との調整							○多摩区社協研修会			○幸区社協研修会 [中止] ○宮前区社協研修会	○障害理解啓発研修会 (各区スポセン等職員対象)	DVDを活用し更なる水平展開	
4	地域等と連携した障害者スポーツイベント等の実施	障害のあるなしにかかわらず誰もが参加できるスポーツイベント等の実施	市総合型スポーツクラブネットワーク等との調整				契約事務				オンラインスポーツイベント				○市長杯ボッチャ大会 [中止]	障害のあるなしにかかわらず誰もが参加できるスポーツイベント等の実施
5	その他 (庁内手続き等)	随時、国との調整	国との調整、契約 国の会計検査等の対応				庁内予算要求						次年度 国への申請	完了報告の作成		○国との調整 (国への申請、市予算の確保) ○取組成果の公表・成果の還元 ○外部(機関)との情報の共有など

事業成果について

取組の名称	障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）
目的	本市においては、1年延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、パラリンピックに重点を置いた「かわさきパラムーブメント」を掲げており、障害者スポーツの推進に取り組んでいる。障害者の継続的なスポーツの実施促進には、身近な場所でスポーツを実施できる機会の創出や、スポーツに関わる人の障害理解が必要である。そのため、学校や地域団体と協力し、障害者とスポーツをつなぐ人材育成の支援や、障害者スポーツ団体と連携したユニバーサルスポーツの大会の運営を通じた「支える体制」の強化により、障害者スポーツの実施環境の整備を図ることを目的とする。
取組内容	1. 地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業の取組 2. 実行委員会の開催
成果と課題	1. 地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業の取組 (1) 障害理解啓発コンテンツの水平展開 6年間の取組成果である障害理解啓発コンテンツを市内に水平展開するため、対象に応じて内容を精査・再構築し、その実施過程や効果を検証した。 ア スポーツを通じた障害理解啓発プログラム (ア) 目的 絵本・紙芝居を活用し、障害に対する偏見・差別の意識軽減を図るなど、スポーツを通じ、多様性を尊重した社会の実現を目指す。 a 紙芝居を活用した授業 (a) 実施内容 小学校にて福祉学習ワークショップを実施した。 実施回数：1回 参加者：70名 (b) アンケート結果 (回答者数70名) Q1 ワクをなくしてワクワクするオープンエアメーカーという考え方は分かりましたか。 ・よく分かった 32名(46%) ・分かった 24名(35%) ・あまり分からなかった 10名(15%) ・分からなかった 3名(4%) ※1名未回答 Q2 みんながワクワクするための3つのヒント(「ほしい」「にている」「つづける」)は分かりましたか。 ・よく分かった 33名(47%) ・分かった 27名(39%) ・あまり分からなかった 9名(13%) ・分からなかった 1名(1%)

成果と課題

Q3 あなたはこれからワクをなくして、ワクワクをつけていきたいと思いませんか。
 ・たくさんつけていきたい 38名(54%)
 ・つけていきたい 25名(36%)
 ・あまりつくりたくない 5名(7%)
 ・つくりたくない 2名(3%)

Q4 みんなでワクワクするには、どのようなことが大切だと思いませんか。(抜粋)
 ・みんなで仲良くすること、やさしさが大事だと思う。
 ・はんたい、にている、つづけるを活用することが大切。
 ・人の気持ちをよく考える。工夫をする。
 ・ワクをなくして、一人一人が仲良く楽しくすることが大切
 ・障害やその重さによつての接し方をする。

Q5 そのほかに何か考えたことや感じたことがありましたら、自由に書いてください。(抜粋)
 ・みんなが好きな遊びをまぜて新しいルールを作っても楽しそう。
 ・オープンエアメーカーのことを知れて良かった。
 ・もっと、いっぱいワクワクを作っていきたい。

(c) 検証
 アンケート結果から、紙芝居を通して、グループで話し合うことにより、いろんな個性に気付き、一人ひとりの個性を尊重し、相手の気持ちや相手の立場になって考え、だれもが楽しく過ごすためにできることを自分の生活に生かそうとする姿勢がうかがうことができた。
 さらに推進するためには、継続して啓発を図ることが必要である。来年度も、各学校や市内で絵本や紙芝居が活用され、多様性を尊重した社会の実現を目指すことができるよう継続して取り組んでいくことが大切である。

b 図書ボランティア研修会
 (a) 実施内容
 全市図書ボランティア研修会にて、絵本・紙芝居「ワクワクのつくりかた」の紹介や読み聞かせのポイントについて、解説講話を行った。
 実施回数：1回
 参加者：98名



[聴講する参加者]

成果と課題

(b) 検証

学校図書に携わる方々に絵本、紙芝居の学校での「ワクワクのつくりかた」のつかいかたのヒントについて解説講話を行うことで、さらなる活用の推進を図ることができた。

今後の課題として、さらなる推進のためには、継続して啓発を図ることが必要である。それには、かわさき共生＊共育プログラム研究協力校情報交換会などで教職員向けの研修を行い、教職員の理解を深めていきたい。各学校や市内で絵本が活用され、多様性を尊重した社会の実現を目指すことができるよう継続して取り組んでいくことが大切である。

c 人権尊重共育推進担当者研修会

(a) 実施予定内容

人権研修会にて、絵本・紙芝居「ワクワクのつくりかた」の紹介や読み聞かせのポイントについて、解説講話を行う予定

小中学校教員140名参加予定

イ 障害理解啓発「ワクワクのつくりかた」の紙芝居の増刷

(ア) 目的

絵本より多くの対象者や広範囲なスペースで読み聞かせできる紙芝居を増刷し、広く効果を展開し、障害に対する偏見・差別の意識軽減を図るなど、スポーツを通じ、多様性を尊重した社会の実現を目指す。

(イ) 内容

絵本データを元にした紙芝居の増刷

B4判

表面20ページ 4色カラー

裏面20ページ 白黒

(読み聞かせ文字、ヒント、表面画像)

印刷部数 170部

(ウ) 配布

配布先	冊数
市内公立保育園	21
各区子育て支援センター	99
市内私立小学校	4
各区こども文化センター	46
合計	170

(エ) 課題

更なる市内への普及を図る必要がある。そのため、紙芝居が配布先でどのように活用されているか情報共有を行い市民へ障害理解を広げていく。

成果と課題

ウ オープンエアメーカー（障害理解サポーター）養成講習会

(ア) 市社会福祉協議会講習会

障害理解啓発のための講習会プログラムについて、目的や手法を理解し、地域の人材発掘養成に活用していくことを目的に社会福祉協議会職員やボランティア相談員、ボランティア運営委員等を実施する。

(a) 実施内容

ボランティアに携わっている方や関心のある方を対象として、スポーツを通じた障害者の理解をテーマに講習を開催した。地域にオープンエアメーカー（障害理解サポーター）を増やすことを展望に捉えながら、活動推進の一つのツールや活用方法等について、解説を行った。

実施回数：2回（内1回は予定）

参加者：25名

(b) 効果

【アンケートより】（抜粋）

- ・具体的で理解しやすかった。
- ・より多くの人に聞いてほしい内容だと思いました。「本人の意志」はもちろん大切ですが、健常とよばれる子たちも本来は同じ様にあるべきではないかと思う。
- ・「福祉」や「尊重」というよく使っている言葉について難しい認識でなく、皆が快適な社会をつくるためのもの。概念でやわらかいものだと思えました。
- ・小学生の頃から、とっかかりを投げかける事が重要だと思います。



[熱心に聴講する参加者]

(c) 検証

アンケート結果より、受講者から意識の変化や、今後の活動へ活かしていきたいといった前向きな意見をいただくことができ、ボランティアに携わっている方や関心のある方に対しオープンエアメーカーの考えを広げ、意識啓発を図ることにより、地域にオープンエアメーカー（障害理解サポーター）を増やすことに繋がった。


(イ) 各区スポーツセンター職員研修会

(a) 実施内容

各区スポーツセンター等の職員を対象として、オープンエアメーカー養成講座を実施し、障害理解の啓発を図った。

成果と課題	<p>(b) 効果 (未回答者あり)</p> <p>Q 1 障害者理解の知識の向上に寄与したと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そう思う 14名 (100%) ・少しそう思う 0名 (0%) ・どちらでもない 0名 (0%) ・あまり思わない 0名 (0%) ・そう思わない 0名 (0%) <p>Q 2 資料は有益だったと思えましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そう思う 11名 (79%) ・少しそう思う 3名 (21%) ・どちらでもない 0名 (0%) ・あまりそう思わない 0名 (0%) ・そう思わない 0名 (0%) <p>Q 3 時間(長さ)は適切だと思えましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そう思う 10名 (71%) ・少しそう思う 2名 (15%) ・どちらでもない 1名 (7%) ・あまりそう思わない 1名 (7%) ・そう思わない 0名 (0%) <p>Q 4 進行方法は良かったと思えましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そう思う 13名 (93%) ・少しそう思う 0名 (0%) ・どちらでもない 1名 (7%) ・あまりそう思わない 0名 (0%) ・そう思わない 0名 (0%) <p>【アンケートより】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく良かった。研修内容を館内スタッフで共有していきたい。 ・館の運営の中で、みんなが快になるポイントを意識していきたい。 ・障害のある方の対応に戸惑う場面があったが、対応スキルが向上したと思う。 ・相手がどうして欲しいかを心掛けた運営をしていきたいと感じた。 <p>(c) 検証</p> <p>アンケート結果より、受講者から意識の変化や、今後の活動へ活かしていきたいといった前向きな意見をいただくことができ、研修を通じて、各スポーツセンター等の職員にオープンエアメーカーの考え方を広げ、意識啓発を図ることにより、同じ障害の種別であっても、状態や症状、ニーズは、一人ひとり違い、画一的な対応をするのではなく、柔軟な対応が必要であることを理解し、施設を通して地域にオープンエアメーカー(障害理解サポーター)を増やすことにつながった。</p>
-------	---

成果と課題	<p>(2) 地域等と連携した障害者スポーツイベント等の実施</p> <p>ア 実施項目</p> <p>(ア) 地域等と連携した障害者スポーツイベント</p> <p>a オンラインイベントの開催</p> <p>(a) 目的</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大に鑑み、地域スポーツの主な担い手である総合型スポーツクラブが、障害者スポーツをオンラインで企画、実施し、障害者がスポーツをする機会や障害のあるなしに関わらず誰もがスポーツを通じて楽しみながら障害に対する理解を高めることのできる機会を提供し、今後社会で求められるオンラインでの障害者スポーツイベント開催のノウハウを習得する。</p> <p>(b) 実施内容</p> <p>地域等と連携した障害者スポーツオンラインイベント 委託先：川崎市総合型スポーツクラブネットワーク</p>  <p>(c) 効果・検証</p> <p>新型コロナウイルスの拡大により、オンラインイベントとして実施した。特別支援学校の教師や地域の方が出演し、ラジオ体操をレクチャーする動画を配信することができた。在宅の時間が増えるなかで、身近な方が出演した動画を見ながら、自宅などで気軽に身体を動かす機会を創出することができた。 4</p>
-------	---

成果と課題	<p>b 川崎市長杯ボッチャ大会 [中止]</p> <p>(a) 目的 市内において、地域や団体と連携して障害理解啓発を目的としたイベントを実施し、障害者がスポーツをする機会を創出するとともに、障害のあるなしに関わらず誰もがスポーツを通じて、楽しみながら障害に対する理解を高めることのできる機会を提供する。</p> <p>(b) 実施内容 第1回川崎市長杯ボッチャ大会 [中止] ※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止 委託先：特定非営利活動法人高津総合型スポーツクラブ S E L F [予定時期] 令和4年1月23日(日) [予定場所] カルツかわさき 大体育室</p> <p>(c) 効果・検証 ①実績 [応募者数] 285名(選手のみ) 【参加チームについて(1チーム3人)】 応募チームが、募集チーム数の32チームを上回り95チームの応募があった。応募チームの抽選を行い、参加チームを決定した。 【年代】 8歳から86歳まで幅広い年代の方に応募いただいた。</p> <p>②検証 大会は中止となったが、幅広い世代からの参加や、応募チーム数を上回る申込から、障害のあるなしに関わらず誰もがスポーツを通じて楽しみながら、障害のある人と交流し障害に対する理解を深めることのできる機会の提供を図れた。今後についても市内へのボッチャ普及の取組を進めていく。</p>
	 <p>ポスターには「第1回 川崎市長杯ボッチャ大会」の文字と、ボッチャボールのイラストが描かれています。募集チームは32チーム(1チーム3人)と記載されています。申込締切は令和3年12月10日(金)必着、大会は令和4年1月23日(日)10:00~15:00とあります。主催は川崎市、申込先は川崎市市民文化局市民スポーツ室です。</p> <p>[市長杯ボッチャ大会のチラシ]</p>

成果と課題	<p>2. 実行委員会</p> <p>(1) 概要 有識者、スポーツ協会、特別支援学校、スポーツ推進委員、身体障害者協会、障がい者スポーツ指導者協議会、社会福祉協議会、総合型地域スポーツクラブ等の代表者及び行政関係部署により構成する実行委員会を2回(7月、2月)開催した。 その中で、障害理解啓発プログラムの水平展開に関わる手法や、総合型地域スポーツクラブ等と連携した障害者スポーツイベント等について協議・検討するとともに、実施の方向性について決定を行った。</p> <p>ア 第1回実行委員会 開催日：令和3年7月27日 成果：・スポーツを通じた障害理解啓発プログラムについて紙芝居の効果的なアンケートや配布先の工夫等のご意見をいただいた。 ・オープンエアーメーカー養成講習会について講習会の対象等の今後の展開についてのご意見をいただいた。 ・地域等と連携した障害者スポーツイベントについて新型コロナウイルスの感染拡大により、イベントをオンラインで開催する等の開催方法の変更や今後の方向性について、ご意見をいただいた。</p> <p>イ 第2回実行委員会(書面開催) 議題：・令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト」委託事業完了報告に伴う業務実績報告書(案)について ・令和4年度の取組(案)について</p>
	<p>3. 総括 本年度は、障害理解啓発コンテンツの水平展開として、市内小学校等における共生共育の充実に向けた授業等への導入の検討・調整を行い、紙芝居を活用した福祉学習ワークショップを行った。また、絵本・紙芝居の活用を促進するため、全市図書ボランティア研修会にて、「ワクワクのつくりかた」の紹介や読み聞かせのポイントについて、解説講話を行った。さらに、紙芝居の増刷を行い、市内の保育園や子ども文化センター等に配布した。 障害理解啓発のための講習会プログラムについて、目的や手法を理解した地域の人材掘り起こしに活用していくことを目的に社会福祉協議会職員やボランティア相談員等に実施した。このように広く効果を展開し、障害に対する偏見・差別の意識軽減を図った。 地域等と連携した障害者スポーツイベント等については、新型コロナウイルスの感染拡大に鑑み、特別支援学校の教師や地域の方が「ラジオ体操第一」をレクチャーする動画を作成した。在宅時間が増加する中、自宅で気軽に身体を動かして、楽しむ場や機会を創出することができた。また、市長杯ボッチャ大会は、新型コロナウイルス感染拡大により、中止となったが、幅広い世代からの参加や、応募チーム数を上回る申込があり、障害のあるなしに関わらず誰もが参加できる大会開催のニーズがあることが分かった。 今後も、スポーツを通じて、多様性を尊重した、さらなる社会の実現に取り組んでいきたい。</p>